

出水郡東町のユリ生産農家を見学して

下敷領 耕 一
(農学部附属農場)

はじめに

2003年1月14日、技官研修ということで出水郡東町鷹巣に行く機会を与えられました。そこで農家を見学させていただいたのでその概要を報告します。

東町は比較的温暖な気候と重粘土の赤土土壤でこの自然を生かした品目として、平成6年からオリエンタルユリ(品種カサブランカ)の栽培が始まった。当日は10日前に降った雪のため産物である馬鈴薯の殻は枯れていた。だがイモの収量にはさほど影響はないとのことであった。この時期はマルチ栽培による馬鈴薯畑が見られた。今でも植え付けをしているところもあった。

ユリ生産農家を見学して(2件)

竹島繁任氏の経営

概要

2連棟及び3連棟のビニルハウスで40aを経営しオリエンタル系ユリ栽培を始めて8年を経験。それまでは菊やテッポウユリを栽培していた。現在は5種類の色物(シベリア, ソルボンヌ, ベルカモ等)を夫婦で春秋の年2作栽培, 夏場はニガウリを施設で栽培。露地では馬鈴薯栽培の複合経営。

ユリのハウスは120cmの平高畝で株間15cmで植え付けて畝に2本の灌水チューブ(スミサンスイM)を敷いていた。昨年(2002年)の年末は3連棟ハウスで23,000本を出荷したとの事。竹島さんの切下球の養成法は球根を掘り上げ, 2ヶ月間冷蔵庫に入れてから露地に定植して養成していた。

有限会社 宮路園芸(宮路和行, 成吾, 成宏)の経営

概要

2連棟, 3連棟のビニルハウス(補強型)で1haを経営。ユリ栽培をはじめから20年を経験。テッポウユリやケイトウ等の花を栽培していたが, 何時からか和行さんは独学でオリエンタル系ユリの栽培を学ぶ。現在は宮路さん夫婦, 次男夫婦, 三男, パート4人の9人で有限会社として, 7, 8月を除きオリエンタルユリの周年栽培を行う。長男は新潟県, 次男は高知県のユリ農園で学んだとのこと。

品種ではカサブランカが全体の3割を占め, 他には色物(シベリア, ソルボンヌ, ティバー等)を栽培していた。意外と排水が悪く, その対策としてピートモスを多く(30袋/10a)使用しているとのことだった。灌水方式は頭上から細霧灌水をしていた。切下球は露地で養成をして再利用をしていた。

最後に

東町は比較的温暖な気候と赤土土壤でユリ栽培に本当に適していることを感じた。栽培品種は晩生品種のカサブランカのみでなく栽培時期の短い品種も導入し, ハウスの利用効率を高めていた。

課題として, オリエンタルユリの球根単価が高いため種苗費軽減のため一度切り花を収穫した球根を養成し再利用する技術を今後確立していかなければならないことを感じた。

多くの方々の支援により研修を受けることが出来たことを感謝いたします。